

教育・人材育成

国立ミンダナオ大学 (MSU) にエルビーとロジャーが合格!

前号で先住民族特別枠での合格を目指して特訓中と伝えた 11 名のうち 2 名が 5 月の試験に合格、6 月から MSU 大学生となりました。残る 9 名は最後のチャンスである 5 ヶ月間の大学準備プログラムを受講中です。10 月の試験に合格すれば、正式に大学生になります。

HANDS は新規奨学生を国立大学合格者のみに限定しました。限られた奨学金で、意欲と能力のある青年を支援したいという方針からです。そのため専門学校進学がふさわしい子どもまでが、MSU に挑戦している状況を見ると、授業料は安いが入学が難しい MSU に限るといふ方針も再考の余地がありそうです。

<2004 年度カレッジ・専門学校奨学生の経費事例>

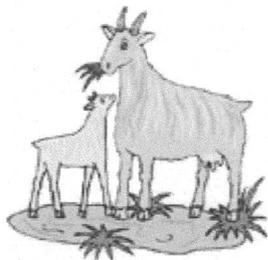
単位：円 (1ペソ=2円で換算)

奨学生名・学校の種類・学年(寮名)	授業料教材費	食費	交通費その他	合計
エリザベス・専門学校看護助手 1 年(ノビシエート)	40,218	13,621	1,624	55,463
ジョーリー・私立カレッジ 2 年(ノビシエート)	53,907	13,602	2,862	70,371
エドウィン・国立大学 MSU 2 年(ノビシエート)	5,823	13,602	9,049	28,474

*MSU は郊外にあり交通費が高いという問題があります。今年さらに 2 割近く値上がりしました。

ブラクール近況

今年は 35 名の新 1 年生を迎えて、ブラクール小学校の生徒数は 118 名になりました。ハイスクールの 56 名を合わせると 174 名です。教師たちは入学・進級手続きのほか、山羊飼育や果樹苗の手入れ指導など、6 月の学期初めは大変忙しく里子(奨学生)の報告が遅れています。報告書の発送は 8 月初旬になると連絡が入りました。



山羊の乳が出るようになり、給食への利用がはじまりました。匂いが気になる子どももいるようで工夫が必要です。今年も平賀基金で山羊飼育が広がります。住民は小屋を作り、餌になるフラミンジャなどの灌木を植えて、雌山羊の配布を待っています。

専門学校(車両整備)2 年のアーノルフォは、あしなが奨学金を受けながら PFP 事務所で働いています。特別貧しい彼のために PFP は 1000 ペソで銀行口座を開きました。今、少しずつ預金をしながら、来年 3 月の卒業を目指しています。

1 年生最後の試験が Deng 熱で受けられず追試も受験しなかった看護助手コースのメージェンと、成績不振のダッドは、後期 11 月から復学の予定です。農学部のマイケル(2 年)、教育学部のロデル(2 年)、初等教育科のマイラ(3 年)はともに 6 月の進級手続きを済ませました。



PFP で炊事を担当するアーノルフォ

まだまだ小学校に行けない子どもたちがいます



スララ町中心部から 30 分程の幹線道路に沿った村は、PFP の支援で、母親たちに山羊飼育指導をはじめました。

土地がなく教育も受けていない住民には、子どもの教育にかかる最低月 200 円が用意できない家庭も多く、将来的には、収入向上事業とともに、奨学金支援が必要な地域です。

財政難を理由に地方自治体からの支援が届かない先住民族の村は PFP のような現地 NGO が頼りです。

(ドゥンガス村で)